

ニュースから考える

トランプ米大統領は4月24日、新型コロナウイルス関連で追加経済対策法案に署名、対策費はこれ



までと合わせ日本円にして300兆円を超える膨大なものです。これはアメリカにとって巨額な戦費を費や

した第二次大戦直後の水準に迫る勢いです。しかし、今はすべての国々・国民が目に見えないウイルスという敵との第三次世界大戦の真っ最中だと言われています。

一方、米国ではコロナ終息後の自国の景気予測を発表しています。2020会計年度(19年10月～20年9月)の財政赤字は約400兆円と過去最大規模となり実質GDP(国内総生産)は、

感染拡大期である4～6月期には前期比年率換算で**マイナス**39.6%まで落ち込む

感染拡大が終息、経済活動が活発となる7～9月期は、低迷期の反発により**23.5%増**となる

安定期にはいる10～12月期にも**11.7%増**へ

つまり、コロナが終わると経済が復活すると予測しているのです。

私たち経済人にとっては営業時間の短縮や休業により現在、経済的には大きな痛手を受けます。しかし、政府や道が求める自粛要請に従い、一人一人が確固たる自覚をもって早期のコロナ終息を目指しましょう。それが、いわゆる普通の生活を取り戻し、経済活動が正常化するための早道だからです。

1分でわかる業務カイゼン

価値観と習慣が変化する

コロナ騒動により、不要不急の外出自粛やテレワークの推進によりインターネットの需要がとても高まっています。



私事ですが、休日の日課である「ジム通い」や「温泉での朝風呂」が制限され手持無沙汰の日々です。そこでPCやiPadを意味もなく眺めるという、日常とは違う時間の過ごし方をしています。私のような人が増えているのでしょうか。YouTubeでは回線混雑を防ぐための措置が進められ、宅急便はネットショッピングの拡大により悲鳴を上げています。

一方、外食自粛をチャンスと捉えSNS等で身近な飲食店の「テイクアウト」の情報が流されています。私

も美味しそうな写真に負け、今まで興味がなかった店のテイクアウトをするという新しい習慣が加わりました。このように新たな習慣・価値観が広がり「コロナ後」は今までとは違った世界になるのではないかとされています。つまり、私たちは今までとは違った新しい環境の中で事業を行わなければならないのです。

一歩先を読む

私にとって「行動が早い人と言えば？」という質問に最初に思い浮かぶ人物はソフトバンクの孫正義氏です。

2000年初頭、インターネットを普及させるために自社回線専用「モデム」を街頭で無償配布、2011年の東日本大震災の際には「脱原発のためメガソーラ

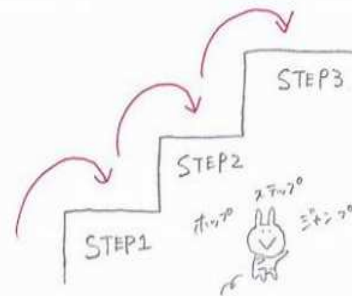


を進める」、「100億円個人で寄附」と次々に発表。2020年のコロナ騒動では「簡易PCR検査の機会を無償で提供」、「月産3億枚マスクを無利益で供給」などとTwitterで投稿しています。家電メーカーが黙々と国産マスクの製造準備をしている間に世論を素早く察知、外国産マスクの購入を実現させるという情報のスピードが命というSNSを最大限に活用できる経営者です。

スピードが成功の秘訣

賛否があるでしょうが、「人が何を求めているかを素早く察知」し、「ビジネスに結び付けるために」スピーディーに行動し、「実現」させ「お金」に結びつけるという孫氏のスピードビジネスは参考になります。

今は目の前が「暗闇」で混乱されている方もおられるでしょうが、明るい未来を夢見てみましょう。前段で紹介したように、感染拡大期は前年比マイナス39.6%だが、終息期には経済活動が活発になり景気低迷の反発により23.5%増、安定期には11.7%増するというアメリカの予想を信じ次のステップへの準備を進めましょう。



コロナで困難な状況を逆転するために、終息前はお客様の新しい習慣・価値観のニーズを探り、終息後はスピーディーに行動、安定期には他社との差別が出来ているよう構想を練りましょう。今はコロナ後に成長するための準備期間です。

今月のことば

未来を予測できるものに

未来は訪れる

エンツォ・フェラーリ(フェラーリ創設者)

編集後記:

先日、手稲区内で移動販売車に「3500円でマスクあります」との大きな張り紙がしてありました。また、ネットでも3000円～5000円でマスクが大量に販売されています。いわゆる「アベノマスク」の配布開始、S社の国産マスクの販売開始の時期とマスクが大量に出回りはじめた時期が偶然？にも重なります。一方、規制対象外の消毒液は未だに市場にはなく、新たに手洗いソープなど別の商品が市場から消えました。もともと資本主義は、金持ちになりたいとか、利益を増やしたいという人間の欲をモチベーションにしています。しかし、儲ければ何をしていても良いというわけではありません。

新しい一万円札の肖像画に選ばれた渋沢栄一氏は「論語と算盤」で儲ける事と世の中に尽くすことを両立しなさい、という考えを提唱しました。先ほどご紹介したように、新しいお札が出回る時期にはビジネスのスタイルが大きく変わっています。その時に生き残っているのは今回不正な手段で儲けた企業でない事を願っています。

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合（TKCが証明するデータを使用しています）

最近1年間：71.4%

（国税局の発表によると法人の黒字割合は34.2%（29年4月～30年3月）です）